

英語科「コミュニケーション英語Ⅲ」授業実践紹介

授業者：浮田 圭一郎

学 年：3年

単元名：みんなで協力して、一つの物語を作り上げよう

単元のねらい（7つのチカラ：自分を理解する力、コミュニケーション力）

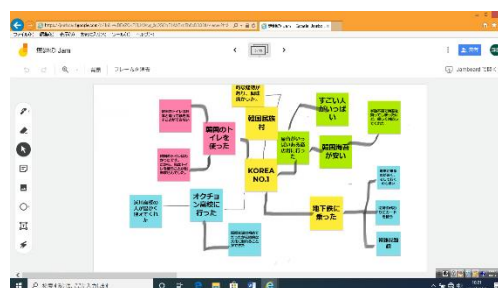
- ①グループワークなどの活動に積極的に取り組み、コミュニケーションを図ろうとする。
- ②これまで訪れた場所や経験したことについてマインドマップを活用し、情報を整理することができる。
- ③「主題文」「支持文」「まとめ」というパラグラフの構成を意識して、文章をまとめることができる。

単元の流れとパフォーマンス課題

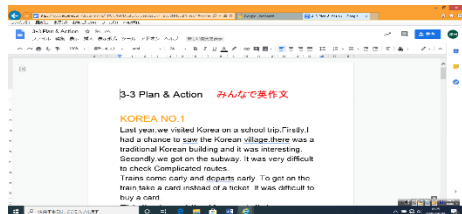
1.（1時間目序盤）2年次の修学旅行を振り返り、その内容をグループごとに英作文を完成させる。その初段階として、それぞれの旅行先に対し「経験したこと」、「知ったこと・考えたこと」を個人でブレインストーミングする。



2.（1時間目中盤）Google Jamboard を利用して、グループごとに付箋にブレインストーミングした内容を書いていく。グループ全体で共有を掛けているので、その付箋をメンバーで並べ替え、物語がつながるようにラインを引いて整理し、マインドマップを作成する。



3.（1時間目後半）今度はグループ全体に共有を掛けた Google Document を使用し、グループごとにマインドマップをもとに全員で英作文を書き込んでいく。担当箇所はマップを作る時点で決めておき、物語全体の体裁はメンバー全体で整える。



4.（1時間目まとめ）完成した物語をメンバー全体で読み込み、各グループで発表を行う。コロナ禍にあるということで机をくっつけて班を作るようなことはしない。発表自体も自分の席からスクリーンを見ながら行い、飛沫感染防止に注意する。



パフォーマンス課題の評価

授業の理解度を測る英作文を行う。これまで訪れたことのある旅行先について、まず Google Jamboard でマップを作った上で授業でやグループ活動で学んだ表現を用いて英作文する。

- ①ルーブリックを意識し、10点以上を取る。
- ②これまでの授業の内容を踏まえ、「経験したこと」、「知ったこと・学んだこと」が伝わる英文を書く。

単元を通して身につけてほしいこと

重要なのは生徒が「実感して、自ら考えたこと、伝えたいこと」をよく分析して、自分のパーソナルな学びの経験がメッセージとしてきちんと伝わるようにすることです。G Suite を使用したグループ活動を通して、「表現したい」、「他人に伝えたい」という意欲をもち、効果的なパラグラフに構成しようとする姿勢を養います。ここでは、修学旅行の経験をモデルにしていますが、生徒はそれぞれにとって印象深い学習体験があるはずで、全員の体験談を共有し、グループ作文を完成させ、パフォーマンス課題では最終的に自分のパーソナルな経験を効果的に英語の文章にまとめる活動につなげてほしいです。

評価

観点	達成度 0	達成度 1	達成度 2	達成度 3
【言語や文化についての知識・理解】 学習した範囲の内容	1点 の25%以上について、「話すこと[やり取り・発表]」、「書くこと」の知識を身に付けていない。	2点 の25%以上について、「話すこと[やり取り・発表]」、「書くこと」の知識を身に付けている。	3点 の50%以上について、「話すこと[やり取り・発表]」、「書くこと」の知識を身に付けている。	4点 の70%以上の内容について、「話すこと[やり取り・発表]」、「書くこと」の知識を身に付けている。
【表現の能力】 述べるべき内容として、表現方法（使用語彙、文法、語法）に留意して自分の意見	1点 を書くことができない。または説明になっていない。表現方法にやや誤りがあり、情報が乏しいなど、よく理解できない。	2点 を書いているが、最小限の情報に留まる。表現方法にやや誤りが見られるが、誤解を生じる大きな誤りではない。	3点 を根拠を含めて書くことができる。ほぼ適切な表現方法で文章を書くことができる。	4点 が根拠を含めて書かれ、情報量が多く、随所に工夫が見られる。適切な表現方法でわかりやすい文章を書くことができる。

①パフォーマンス課題に対する評価（30%）

②毎授業の振り返りシート+その他の課題+小テスト（20%）

③定期考査による評価（50%）